

第2回若葉区地域福祉計画推進協議会 町内自治会分科会議事録

日時：平成23年9月24日（土）

午前9：30～10：30

場所：若葉保健福祉センター3階 健康増進室

出席者：委員9名、事務局7名、傍聴人0名

【1】議事概要

(1) 第1回会議後の流れについて

大嶋副委員長より、第1回会議後の運営企画委員会等での議論の流れについて説明した。

(2) 町内自治会分科会の今年度のスケジュールについて

大嶋副委員長より、会議資料1に基づき、今年度の町内自治会分科会のスケジュールについて説明した。

(3) 前期町内自治会訪問団の編成について

訪問団の編成は、推進協委員2名、事務局2～3名に、町内自治会分科会からの見学希望委員を加えた4～6名程度の編成とする。なお前期の訪問については、推進協委員からは武委員長、大嶋副委員長、金子委員、柳原委員の4名に参加をお願いすることとする。

(4) その他

町内自治会と社協地区部会の関係性、及び今年度の推進協の活動方針について確認を行った。

【2】発言要旨

(1) 第1回会議後の流れについて

大嶋副委員長

第1回会議が6月21日と期間が空いたため、意思疎通のために、まずはその後の流れをご説明していく。

前回会議後に委員のみなさんにはレポートにて貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。内容については、山内委員にまとめていただいた資料を参照されたい。自治会を取り巻く環境はそれぞれに違いがあると改めて認識した。我々推進協は、それを念頭において活動していかなければ、方法を間違える恐れがある。

今年は第2期計画の初年度であり、今年度は計画の周知徹底を目標としていく。具体的には、推進協が各自治会に赴き、周知活動を行っていくつもりである。各自治会に計画のあらましを知ってもらうと同時に、地域での福祉活動には何が必要かをリサーチすることも目的としていく。行政も今年から来年にかけて、地域での支えあいの仕組み作りを推し進めていく予定とのこと。地域支えあい組織への補助金事業の計画もあると聞いている。

(2) 町内自治会分科会の今年度のスケジュールについて

大嶋副委員長

町内自治会分科会の今年度のスケジュールについて説明する。7、8月は運営企画委員会にて、訪問対象自治会の選定、訪問時の周知内容の検討、先進地域の視察等について議論した。先進地域の視察については、本日この後の全体会で美浜区社協磯部地区部会での事例を

紹介していただく。9月は本日、第2回会議、10月に前期訪問活動を行い、11月に運営企画委員会で前期訪問活動について改善点等をまとめる。それを各委員にフィードバック後、12～1月に後期訪問活動を行い、2月に運営企画委員会で分析調査、その結果を全体会で報告する。今年度は以上のような流れで考えている。

(3) 前期町内自治会訪問団の編成について

大嶋副委員長

運営企画委員会にて訪問活動について検討した結果、まずは先発隊で訪問活動を行い、改善点等を検討したうえで、全員で後期の訪問活動を行うのはどうかとの案が出ている。現在、訪問時のマニュアルも作成中である。先発隊の編成については、推進協委員2名、行政職員2～3名の計4～5名での訪問を考えている。推進協からは、実際に地域での福祉活動組織を立ち上げた経験のある金子委員・柳原委員に加え、武委員長と私の4名が参加する。

訪問対象自治会については、自治会への地域支えあい組織に関するアンケートで反応のあった自治会を中心に、20自治会程度を予定している。

津田委員

前期訪問活動は4名の委員が先発で周知活動を行い、後期訪問活動は全員で行うのであれば、前期の訪問活動に希望者が同行して見学できるようにするのはどうか。

藤森委員

賛成。

大嶋副委員長

訪問団は推進協委員と行政職員で4～5名の予定であり、これ以上人数が多くなるのはどうか。事後報告では駄目か。

津田委員

実際に自分たちで見て経験したい。見学者は会場の後ろのほうで聞いているのであれば、目立たないのではないか。

大嶋副委員長

おそらく自治会側は正副会長2～3人ぐらいで対応するのではないかと思う。そこに5～6人の団体で行くのはどうだろうか。

柳原委員

以前に実際に私が訪問した時の経験では、大嶋副委員長の言う通り、自治会側は役員5～6人程度のことが多い。社協が声掛けをしてくれた時はかなりの人数が集まってくれたが、あとは自治会長の考えによるのではないか。

津田委員

出席者の多い時に見学できれば、あまり目立たないのではないか。

大嶋副委員長

5人でも、見学者を加えた6名でも、いずれにしても多いのは変わらないのかもしれない。

山内委員

訪問対象自治会はどのように選定しているのか。

大嶋副委員長

既に活動が行われているところはひとまず外している。アンケートで地域支えあい組織立ち上げに関心がありそうな反応のあった自治会を中心に選んでいる。

山内委員

どういう話をしに来たのが、きちんと相手方に伝わるようにしなければならない。

菊谷所長

事務局としてもなるべく多くの人に聞いていただけるよう、調整をとっていくつもりである。

石川委員

自治会の定例会や3役以外の役員も集まっている場に訪問するのがいいのではないか。

大嶋副委員長

それぞれに忙しい中で集まってもらうのは難しいのではないか。また定例会で時間をとってもらえるだろうか。その判断は自治会にお任せするのがいいのではないか。

もう1つの問題として、自治会長をやる気にさせないと、話が進んでいかないのではないかとということがある。

柳原委員 自治会長の存在は重要。以前、武委員長の所属する自治会にも訪問したが、会長が代わってしまい、それから進んでいない。

大嶋副委員長 自治会には福祉以外にも問題が沢山ある。会長をいかに説得するかが重要である。

藤森委員 先日、若松台3丁目の自治会長と話した。そこでは逆に、誰がいつどこに説明に来てくれるのかと聞かれた。ここはかつて、金子・柳原両委員のレクチャーを受け、老人会と自治会で活動を立ち上げる構想が出来ている。

山内委員 先発隊で10ヵ所以上訪問するのは、かなりのハードスケジュールになるのではないかと。自治会長が1年で代わってしまい話が進まない、ということがないようにお願いしていただければいいのではないかと。

大嶋副委員長 福祉は民生委員がやるものだと思っている人も多い。そうした先入観を持っている人を説得するのは、1度の訪問では難しい。訪問数は柔軟に対応していただければいいのではないかと。

津田委員からご要望のあった訪問時の見学については、同行可ということによろしいかと。一同賛成

菊谷所長 見学については自治会訪問日を調整後、希望者に連絡をして予定の合う方に参加してもらうようにする。

(4) その他

大嶋副委員長 みなさんは自治会と社協地区部会のすみ分けは理解しているか。

山内委員 地区部会の構成自治会間で温度差が出ては、地区部会活動はうまくいかない。それは地区部会活動の実践部隊として自治会が動いていくためである。

津田委員 ある地域全体で行うような活動は地区部会が、町単位で行う活動については自治会が行うものだと考えている。町でやれることは自治会でやるべきである。

大嶋副委員長 各自治会に温度差がある状態で、地区部会は統轄できるのか。

山内委員 確かに地区部会が所属自治会を統轄していくのは難しい。会長の中には、行政に関わってほしくないという方もいる。

大嶋副委員長 自治会が単独で活動を行った場合、地区部会との関わりはどうなるのか。自治会活動と地区部会活動がオーバーラップするようなことはないのか。

山内委員 地区部会はあくまで、所属自治会に各活動を行ってくださいと求めていき、各自治会でやれることは自治会でやっていただくというスタンス。組織性・継続性のある活動は、地区部会ではなるべく行わないようにしている。

藤森委員 子育てサロンを行っている団体の一覧表も作っていただきたい。

大嶋副委員長 地域の問題は、高齢者に限らず様々なものがあるが、我々推進協の力には限界がある。従って、今年度は行政側も推進予定の高齢者地域支えあいについて、推進協でも推し進めていくことをご理解いただきたい。